



学校教育目標

鴨庄の里で育む 自立と協働

「学力」と「人間力」の土台を作り、自信を持って未来への道を切り拓く力を育成するとともに、将来、心豊かになれる感性や教養の礎を築く。



めざす子ども像

- [自立] なにごとでも自分で考えて、行動のできる子
- [協働] 人のためになることを、すすんでできる子
- [創造] 大きな夢を持ち、粘り強くがんばる子



めざす教師像

- ・何を努力すればよいのかの認識があり、それが共有されている
- ・変化への感度が高く、迅速に対応する
- ・児童の自律型の学びへの転換を図る
- ・社会的な課題に自ら取り組む

めざすコミュニティ・スクール像

主体性を持った学校運営協議会の主導により、地域・学校・家庭がそれぞれ本来の役割を発揮し、地域の教育力を活かした学校と、持続可能なコミュニティを形成する。

本校の特色ある取組

1. 五感を通して対象を知る体験的な活動
2. 校区内の歴史・文化・産業を活かした「鴨庄ふるさと学」
3. 「人と関わる」喜びを育む全学年合同学習・活動
4. 発表の機会の多さを活かした表現力の育成
5. 「鴨庄っ子太鼓」



子どもたちの実態

良さ — 学年を超えた良好な人間関係

【児童にみられる傾向】

- ・素直で真面目
- ・規範意識が高い
- ・清掃活動に一生懸命に取り組む
- ・学年の垣根なく、人間関係が良好
- ・興味関心を持って学習に取り組む
- ・授業において、高めあう姿が見られる
- ・地域に愛着を持っている

【成果を上げている取組事例】

- ・教職員が全校児童にかかわる指導体制
- ・体験活動の充実
- ・学年発表などのねらいを持った表現活動
- ・全学年で取り組む、自分の考えを育てるノート作り
- ・児童の自治活動における「いいところ発表」
- ・異年齢活動の充実
- ・家庭、地域との連携
- ・identityの確立を後押しする「鴨庄ふるさと学」

課題 — 主体性(自分の意志・判断で行動しようとする態度)の育成

【児童にみられる傾向】

- ・指示待ちの傾向がみられ、物事に対して臨機応変に対応できない。
- ・発表場面で声が小さかったり、最後まで言い切らなかったりした場合も周りがくみ取っている。

【指導者にみられる傾向】

- ・「語り過ぎ」「教え過ぎ」の傾向があり、児童自らが課題解決していく機会を減らしている。

校内研究の成果

- ・日常的なノートの点検と評価を徹底して行った。「めあて・やってみる・振り返り・練習」を行うノート指導により、学びのサイクルを確立する児童が増えた。
- ・授業の振り返りを大切にした。授業を通して自分の考えの変容を書く児童が増えた。
- ・必要に応じ、下学年の問題にも取り組んだ。これにより、多くの躓きが解消された。
- ・学期末漢字・計算検定での正答率が上向いた。

学力調査や校内研究から見えてきた課題

- ・丹波市定着度調査より
 - 文意を読み取る力に課題がある。
 - 条件付きで文を書く力に課題がある。
 - 後半の無回答率が高く、粘り強く課題に取り組む姿勢に課題がある。
- ・書くことでも、発表でも、思考の過程を表現する力が大変弱い。
- ・基本的な用語や話型などが使えておらず、表現するスキルが身につけていない。また、相手に分かりやすく伝えようとする気持ちも弱い。
- ・論理的に自分の考えをまとめたり述べたりすることができず、深い学び合いにならない。
- ・児童が対話をして学ぶ中で、教師の発問や言葉かけの工夫や改善が必要である。

子どもたちが自ら学んでいくこと

～次世代を生きぬく学力を身に付ける～

1. 言語活用能力の向上 [教科等横断的な視点]

国語の授業で習得したスキルを、他教科に応用させる。また、例えば、算数では倍数、辺など、理科の授業では種子・日光など、それぞれの教科には、その教科に固有の言葉や言葉の使い方がある。各教科で言語活動を充実させる中で、「この教科では、こうした言葉や言葉の使い方が大切だ」と子ども自身が気づくと、その教科における「見方・考え方」が働くことにつながる。

- 画一的なノートではなく、自分の考えを育てるノートづくりをする。
- 全ての教科で、考えや思いを書かせる際には、内容に入れる条件と目安の文字数を設定する。(マス目入りのノート、ワークシートを使用する。)
- 低学年 100 字、中学年 200 字、高学年 400 字程度を、決まった時間内に書ける力をつける。
- 書いた文章を読み直したり推敲したりすることを習慣づける。
- 日常的に学習用語を教師も子どもも意識して使っていく。
(例：段落、根拠、等号、不等号、倍数、約数、対角線、辺、角、頂点、種子、日光など)

2. 情報活用能力の向上 ～ICT活用の日常化～

■ ICT活用の基礎スキルを習得する。

「スクールライフノート」「SKYMENU Class」「G Workspace」の活用
丹波市プログラミング教育計画(5h/年)

■ 自分の課題に応じて適切に使いこなす能力を身につける(個別最適な学び) タブレット型ドリル教材 等

■ 情報モラル、情報セキュリティについての基本ルールを理解する。



A 一斉学習		B 個別学習		C 協働学習	
挿絵や写真等を拡大・縮小、画面への書き込み等を活用して分かりやすく説明することにより、子供たちの興味・関心を高めることが可能となる。		デジタル教材などの活用により、自らの疑問について深く調べることや、自分に合った進度で学習することが容易となる。また、一人一人の学習履歴を把握することにより、個々の理解や関心の程度に応じた学びを構築することが可能となる。		タブレットPCや電子黒板等を活用し、教室内の授業や他地域・海外の学校との交流学习において子供同士による意見交換、発表などお互いを高めあう学びを通じて、思考力、判断力、表現力などを育成することが可能となる。	
A1 教員による教材の提示	B1 個に応じる学習	B2 調査活動	C1 発表や話し合い	C2 協働での意見整理	
					
画像の拡大提示や書き込み、音声、動画などの活用	一人一人の習熟の程度等に応じた学習	インターネットを用いた情報収集、写真や動画等による記録	グループや学級全体での発表・話し合い	複数の意見・考えを議論して整理	
B3 思考を深める学習	B4 表現・制作	B5 家庭学習	C3 協働制作	C4 学校の壁を越えた学習	
					
シミュレーションなどのデジタル教材を用いた思考を深める学習	マルチメディアを用いた資料、作品の制作	情報端末の持ち帰りによる家庭学習	グループでの分担、協働による作品の制作	遠隔地や海外の学校等との交流授業	

3. 外国語によるコミュニケーション能力の向上

- 英語を「使う」
英語アクティビティの充実

～豊かなところをつくる～

4. 自分も友達も安心して学べる学級・学校をつくる

- 始業時に本日の予定と家庭学習を把握し、見通しを持って生活する。
- 日常的に学級目標を振り返る。
- 自分の役割で周りが良くなる実感を持つ。
- ロールモデルで育ち、ロールモデルに育っていく異学年交流に取り組む。



5. 感性と情操を育む（アイデンティティの確立に向けて）

- 五感を通して対象を知る体験的な活動に取り組む。
- 人権感覚を高める。
- 鴨庄地域の歴史・文化・産業から学ぶ。（鴨庄ふるさと学）
- 多様な価値観に出会う。



～健やかな体をつくる～

6. 体力・運動能力の向上に励む

- 体の動かし方やコツを習得する。
- 外遊びの推奨：授業で学んだ内容を授業以外でも楽しむ。



7. 自らの健康を適切に管理・改善する

- 感染症対策を実行する。
- よい姿勢の保持（*タブレット導入を鑑み）



教職員が工夫・改善していくこと

～組織的な学校運営の継続～

6年間を系統的な指導でリレーし、教員個人の力量に頼らず、協働・協力体制の下、目標を達成していく。

1. 新型コロナウイルス感染症蔓延防止にかかる対応

- 日常的な蔓延防止策の徹底
- 臨時休校、3以上の感染レベル措置に対応できる備え

2. 「観」をそろえた職員集団

- 多面的な児童理解 → 情報共有、交換授業の実施、関係機関の協力による的確なアセスメント
- 言語活用能力の育成
- 情報教育の推進
- 問題解決型の学習の実施
- 声かけ（評価言）の重視

机間指導しながら、教師はいろいろ話しかけます。それが「声かけ＝評価言」です。この、声かけの背景にある「ここまで子どもを伸ばしたいという目指す姿＝評価規準を持って、その方向へ子どもを後押しします。

声かけの例

- ・励まし「いいぞ、がんばれ」
- ・確認「うん、〇〇なんだね」
- ・強化「それは大事だよ」
- ・焦点化「ここに注目してごらん」
- ・意味づけ「それはこういうことなんだね」
- ・例示「たとえばこうしたらどうなるかな」
- ・指示「こうしてごらん」

- 多様な価値観に触れさせる

学校の規模や、偏りのある地域社会の中で生活していることから、多様性やマイノリティ等との出会いをセッティングする必要がある。

児童が計画的で無意識的な活動から、吸収し、経験する事柄は実に多くあります。教師の行動や発言には、その価値観や考え方が反映されることを考えると、教師自らが、例えば下記の2つの指針などを理解・実践し、最先端の感覚を持って生活や仕事に従事することは、むしろ、教えることより影響を与える「カリキュラム」となります。また、教師自身の生活も豊かなものになっていくと考えます。

- ダイバーシティ

ダイバーシティとは直訳すれば「多様性」ということで、「幅広く性質の異なる者が存在する」という意味です。様々な違い（差異）が存在するダイバーシティは、第1属性（内側の輪）と第2属性（外側の輪）の2つのタイプからなっています。第1属性には、年齢、性別、国籍、人権、障がい、LGBTなどの性的マイノリティが挙げられます。第2属性には雇用形態や、婚姻、嗜好、収入、出身地、学歴、趣味や価値観といった他者との「違い」がありその数は無限です。



- SDGs
SDGs (Sustainable Development Goals : 持続可能な開発目標)は、「誰一人取り残さない (leave no one behind)」持続可能でよりよい社会の実現を目指す世界共通の目標です。2030年を達成目標とし、17のゴールと169のターゲットから構成されています。



3. 報告・連絡・相談の慣行

- 諸対応の留意点

<ul style="list-style-type: none"> ①組織対応 ②事実関係の正確な把握 ③家庭への迅速な連絡 ④児童・保護者への事後ケア 	<p>生徒指導の考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 良し悪しに関わらず、教室の様子や児童の実態を話題にする習慣を持つ。 ・ 喧嘩やトラブルは、ゼロにすることが目標ではない。適確に対応し自浄能力（組織内の悪弊を自分たちで改めることのできる力）を育てていく。 ・ 保護者には、学校で起こったことの一部始終を伝えることを基本とする。
---	---

4. 「教育」を地域・家庭にわかりやすく伝える

5. 働き方の質の向上

- 学校及び教師が担う業務の明確化・適正化
- 水曜定時退勤の完全実施と計画的年休取得

学校運営協議会を活かした活動

～学校も地域も元気になる 鴨庄コミュニティ・スクール～

1. 学校の活性化

- 鴨庄ふるさと学の支援
 - ・ 児童は、多様な人と関わり、多様な経験、体験を重ねていく。
 - ・ 鴨庄の歴史や文化、産業などに焦点を当てた学習を支援し、児童の鴨庄に誇りを持ち、鴨庄を愛する心を育てる。
- 学習支援
 - ・ 地域住民による学習支援ボランティアの参画により、児童が達成感を味わったり、教師以外の大人から評価されることにより、子どもたちの自己肯定感の高まりを促進する。

2. 鴨庄地域の活性化

- 学校運営協議会を介し、自治振興会等と連携を図る。
 - ・ 鴨庄の子どもたちを「縁」として、保護者や地域住民、学校が結び合い関わり合う中で子どもの生きる力を育成し、協働のまちづくりへとつなぐ。



学校教育目標



鴨庄の里で育む 自立と協働



- [自立] なにごとも自分で考えて、行動のできる子
- [協働] 人のためになることを、すすんでできる子
- [創造] 大きな夢を持ち、粘り強くがんばる子

重点 子どもたちが自ら学んでいくこと

- ◇ 次世代を生きぬく学力を身に付ける
 - (1) 言語活用能力の向上 [教科等横断的な視点]
 - (2) 情報活用能力の向上 [ICT活用の日常化]
 - (3) 外国語によるコミュニケーション能力の向上
- ◇ 豊かなところをつくる
 - (4) 自分も友達も安心して学べる学級・学校をつくる
 - (5) 感性と情操を育む (アイデンティティの確立に向けて)
- ◇ 健やかな体をつくる
 - (6) 運動能力の向上に励む
 - (7) 自らの健康を適切に管理・改善する



重点 教職員が工夫・改善していくこと

- ◇ 組織的な学校運営の継続
 - (1) 新型コロナウイルス感染症蔓延防止にかかる対応
 - (2) 「観」をそろえた職員集団
 - 多面的な児童理解
 - 言語活用能力の育成
 - 情報教育の推進
 - 問題解決型の学習の実施
 - 声かけ(評価言)の重視
 - 多様な価値観に触れさせる
 - 現代的課題に職員自らが取り組む
 - ダイバーシティ/SDGs
 - (3) 報告・連絡・相談の慣行
 - (4) 「教育」を地域・家庭に分かりやすく伝える
 - (5) 働き方の質の向上

めざすコミュニティ・スクール

主体性を持った学校運営協議会の主導により、地域・学校・家庭がそれぞれ本来の役割を発揮し、地域の教育力を活かした学校と、持続可能なコミュニティを形成する。

本校の特色ある取組

- (1) 五感を通して対象を知る体験的な活動
- (2) 校区内の歴史・文化・産業を活かした「鴨庄ふるさと学」
- (3) 「人と関わる」喜びを育む全学年合同学習・活動
- (4) 発表の機会の多さを活かした表現力の育成
- (5) 「鴨庄っ子太鼓」



